

5 資 料

資料－1 水準測量観測路線図

- (1) 尾張・名古屋市地域----- 27
- (2) 知多、西三河、東三河地域----- 28

資料－2 2024 年市町村別水準点変動状況

- (1) 尾張・名古屋市地域----- 29
- (2) 知多地域----- 30

資料－3 地盤沈下観測所の設置状況及び施設概要

- (1) 地盤沈下観測所の設置状況図----- 31
- (2) 地盤沈下観測所等の施設概要----- 32

資料－4 2024 年地下水位・地盤収縮量変動状況

- (1) 尾張地域----- 35
- (2) 西三河、東三河地域等----- 37

資料－5 2024 年度地下水揚水設備等の状況

- (1) 2024 年度地下水揚水量の内訳 ----- 39
- (2) 工業用水法及び県民の生活環境の保全等に関する条例に係る
事業所数及び井戸(揚水設備)数-----40

資料－6 2024 年降水量の状況 ----- 41

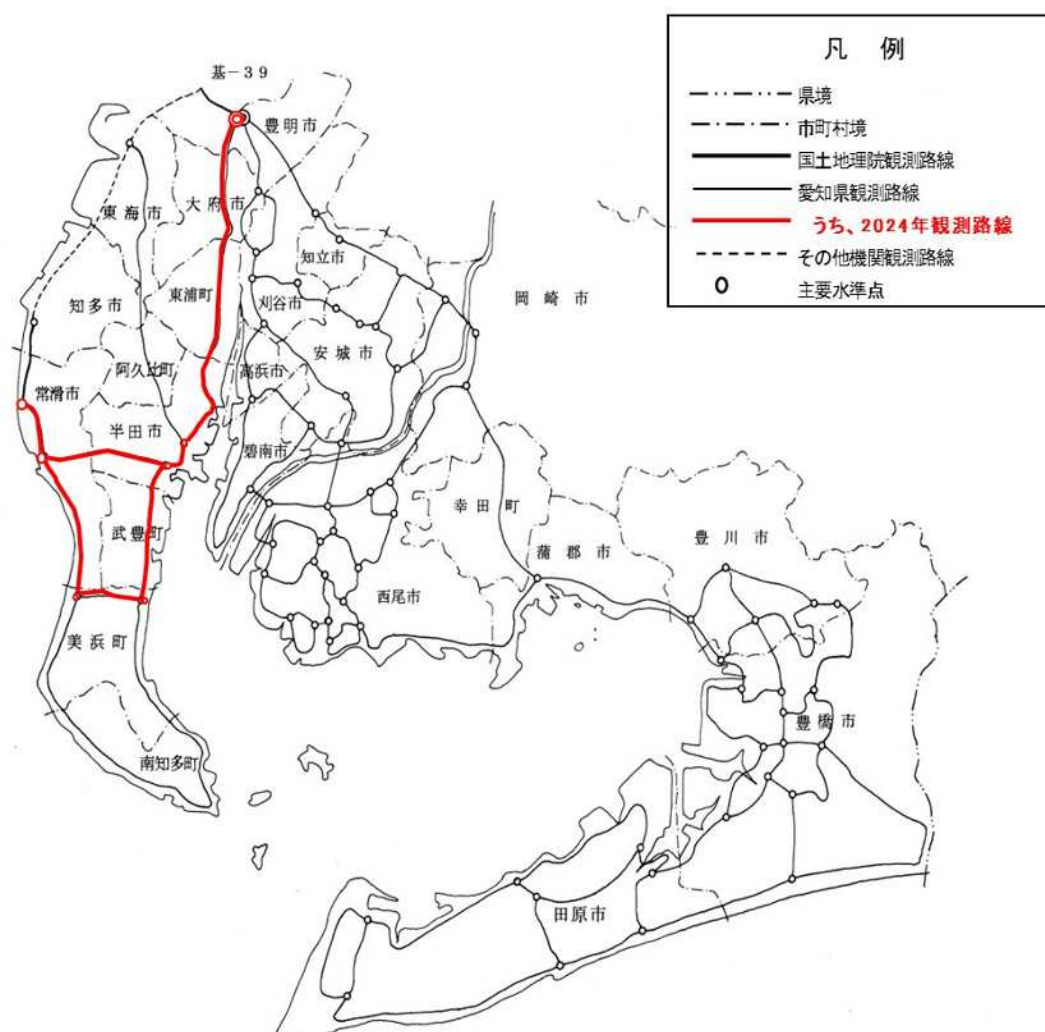
資料－7 西三河地域及び東三河地域の地盤沈下調査結果 ----- 42

資料－8 地盤沈下対策 ----- 48

(1) 水準測量觀測路線図 (尾張・名古屋地域)



(2) 水準測量観測路線図(知多、西三河、東三河地域)



資料－２ 2024 年市町村別水準点変動状況

(1) 2024 年市町村別水準点変動状況（尾張・名古屋市地域）

市町村名	有効 水準点数	沈下 点数	変 動 量 (mm)			変 動 状 況 (点 数)			
			平 均	最 大 (-)	最 低 (+)	-2cm 以 上	-2 ～ -1cm	-1未満～0cm	0cm 以 上
名古屋市	250 (252)	95 (32)	+1.2 (+0.2)	-7.6 (-0.5)	+10.9 (+0.7)	- -	- -	95 (32)	155 (220)
一宮市	43 (43)	31 (43)	-0.8 (-2.7)	-5.1 (-6.3)	+2.9 (-0.3)	- -	- -	31 (43)	12 (0)
春日井市	5 (5)	0 (3)	+1.2 (-0.5)	+0.2 (-1.9)	+2.5 (+0.9)	- -	- -	0 (3)	5 (2)
津島市	14 (14)	12 (14)	-2.1 (-2.1)	-5.2 (-5.7)	+1.8 (-0.2)	- -	- -	12 (14)	2 (0)
犬山市	6 (6)	4 (3)	-1.3 (+0.0)	-3.1 (-0.8)	+0.9 (+1.0)	- -	- -	4 (3)	2 (3)
江南市	14 (14)	13 (14)	-1.8 (-1.4)	-4.0 (-2.5)	+0.5 (-0.3)	- -	- -	13 (14)	1 (0)
小牧市	8 (8)	3 (4)	+0.9 (-1.4)	-0.9 (-7.3)	+3.2 (+0.7)	- -	- -	3 (4)	5 (4)
稲沢市	33 (33)	25 (24)	-0.8 (-2.1)	-3.7 (-6.3)	+2.7 (+3.6)	- -	- -	25 (24)	8 (9)
岩倉市	5 (5)	0 (5)	+2.0 (-4.1)	+1.2 (-4.6)	+2.8 (-3.3)	- -	- -	0 (5)	5 (0)
愛西市	57 (57)	57 (56)	-3.0 (-2.2)	-6.3 (-4.7)	-0.2 (+0.3)	- -	- -	57 (56)	0 (1)
清須市	12 (12)	5 (12)	-0.2 (-4.2)	-4.5 (-8.0)	+2.5 (-0.7)	- -	- -	5 (12)	7 (0)
北名古屋市	3 (3)	0 (3)	+3.5 (-4.9)	+3.3 (-6.1)	+3.8 (-4.0)	- -	- -	0 (3)	3 (0)
弥富市	41 (41)	36 (41)	-2.6 (-2.8)	-5.3 (-7.3)	+1.9 (-0.3)	- -	- -	36 (41)	5 (0)
あま市	18 (18)	10 (13)	-0.5 (-0.9)	-4.1 (-3.0)	+2.1 (+3.4)	- -	- -	10 (13)	8 (5)
豊山町	2 (2)	0 (2)	+1.7 (-0.9)	+1.6 (-1.0)	+1.8 (-0.8)	- -	- -	0 (2)	2 (0)
扶桑町	2 (2)	2 (2)	-2.4 (-0.4)	-2.5 (-0.6)	-2.3 (-0.2)	- -	- -	2 (2)	0 (0)
大治町	3 (3)	3 (1)	-3.0 (+0.9)	-3.5 (-0.3)	-2.5 (+1.7)	- -	- -	3 (1)	0 (2)
蟹江町	12 (12)	11 (7)	-2.5 (-0.2)	-5.4 (-2.2)	+0.6 (+1.8)	- -	- -	11 (7)	1 (5)
飛島村	29 (30)	20 (29)	-1.4 (-3.2)	-5.2 (-8.2)	+4.6 (+0.0)	- -	- -	20 (29)	9 (1)
合 計	557 (560)	327 (308)	-0.2 (-2.4)	-7.6 (-8.2)	+10.9 (+3.6)	- -	- -	327 (308)	230 (252)

注) () 内は、前回測量時である2023年数値。

(2) 2024年市町村別水準点変動状況(知多地域)

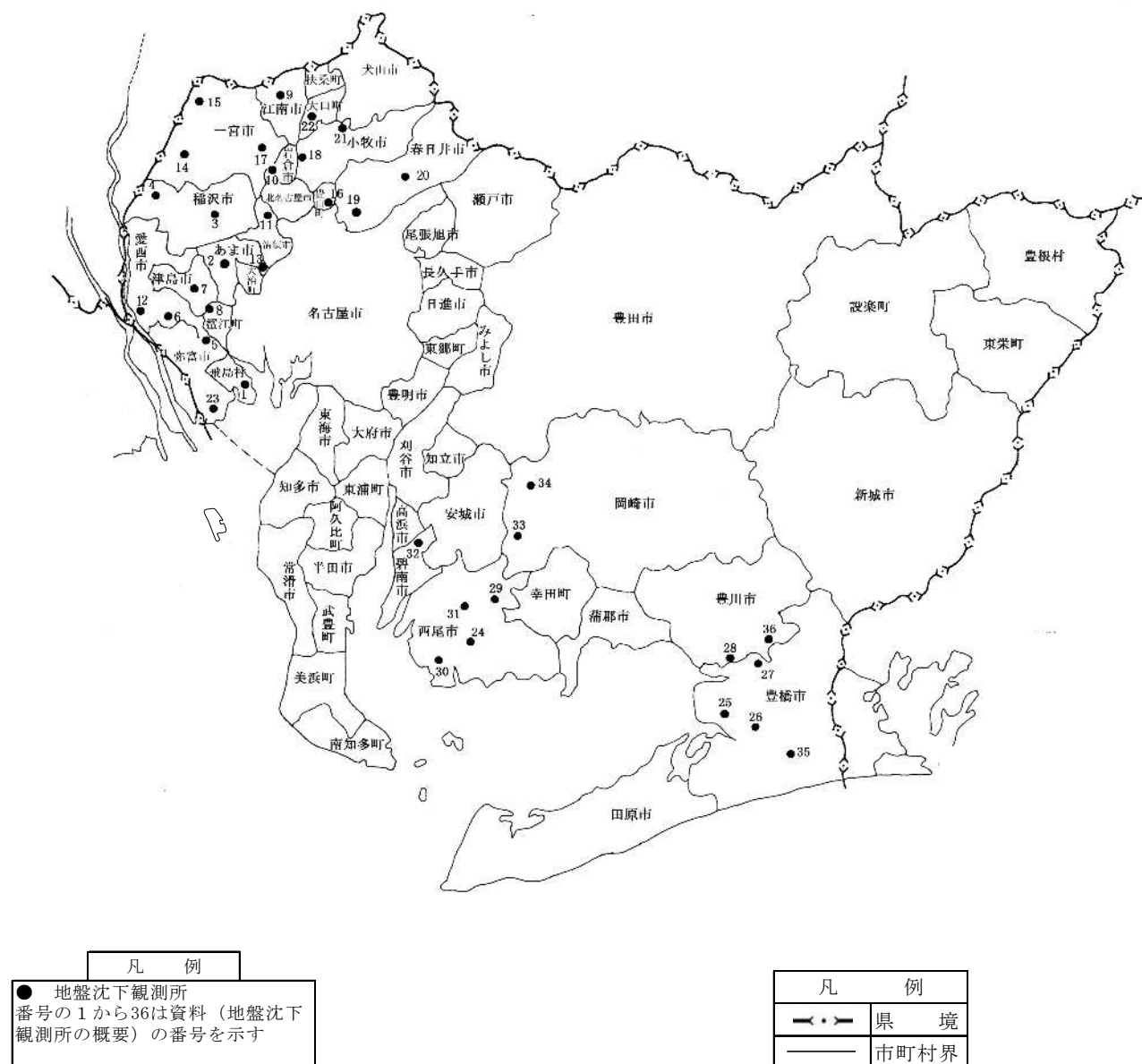
市町村名	有効 水準点数	沈下 点数	変 動 量 (mm)			変 動 状 況 (点 数)			
			平 均	最大(-)	最低(+)	-2cm 以上	-2 ～ -1cm	-1未満～0cm	0cm 以上
半 田 市	11 (11)	0 (0)	+1.7 (+1.4)	+1.0 (+0.1)	+2.1 (+2.6)	- -	- -	0 (0)	11 (11)
常 滑 市	7 (12)	0 (2)	+2.0 (+0.7)	+1.1 (-0.5)	+2.5 (+2.4)	- -	- -	0 (2)	7 (10)
東 海 市	0 (5)	0 (5)	+0.0 (-1.4)	+0.0 (-2.1)	+0.0 (-0.9)	- -	- -	0 (5)	0 (0)
大 府 市	4 (4)	1 (1)	+0.4 (+0.3)	-0.1 (-0.3)	+0.9 (+0.7)	- -	- -	1 (1)	3 (3)
知 多 市	0 (9)	0 (2)	+0.0 (+0.4)	+0.0 (-0.9)	+0.0 (+0.8)	- -	- -	0 (2)	0 (7)
東 浦 町	5 (6)	4 (0)	-0.4 (+0.7)	-1.4 (+0.4)	+0.4 (+0.9)	- -	- -	4 (0)	1 (6)
美 浜 町	5 (5)	0 (0)	+1.8 (+3.0)	+1.0 (+2.2)	+2.6 (+3.4)	- -	- -	0 (0)	5 (5)
武 豊 町	4 (4)	0 (0)	+2.2 (+2.6)	+1.8 (+2.3)	+2.5 (+2.8)	- -	- -	0 (0)	4 (4)
合 計	36 (56)	5 (10)	+1.4 (+0.9)	-1.4 (-2.1)	+2.6 (+3.4)	- -	- -	5 (10)	31 (46)

注1) ()内は、前回測量時である2020年数値。

注2) 変動量は1年間に換算した変動量を示す。

資料－3 地盤沈下観測所の設置状況及び施設概要

(1) 地盤沈下観測所の設置状況図



※名古屋を除く

(2) 地盤沈下観測所等の施設概要

1) 地盤沈下観測所（尾張地域）

番号	観測所名	所在地	水位計 (台)	沈下計 (台)	帯水層（深度：m）				設置年度
					G 1	G 2	G 3	不圧	
1	飛島	飛島村	3	3	50	150	300		1973年度
2	美和	あま市	4	3	40	125	300		1974年度
								10	2005年度
3	稲沢	稲沢市	4	3	50	130	260		1975年度
								7	2010年度
4	祖父江	稲沢市	4	3	64	135	301		1975年度
								5	2006年度
5	十四山	弥富市	4	3	55	163	307		1976年度
								10	2005年度
6	佐屋	愛西市	3	3	64	147	263		1977年度
7	津島	津島市	4	3	54	144.5	300		1977年度
								7	2010年度
8	蟹江	蟹江町	4	3	59	143.5	281		1977年度
								7	2010年度
9	江南	江南市	3				100		1977年度
						36			1978年度
								13	2018年度
10	岩倉	岩倉市	3	1			150		1977年度
					37	54			1978年度
11	春日	清須市	3	3			150		1977年度
					27	90			1978年度
12	立田	愛西市	3	3	72	175	303		1978年度
13	甚目寺	あま市	3	3	34	106	170		1978年度
14	尾西	一宮市	3	3	40	159	200		1978年度
15	木曾川	一宮市	2			90	200		1978年度
16	豊山	豊山町	3				100		1978年度
					13	50			1979年度
17	一宮	一宮市	3		40	100	200		1979年度
18	小牧第一	小牧市	2			60	115		1979年度
19	春日井第一	春日井市	3		40	149	168		1980年度
20	春日井第二	春日井市	2			60	125		1980年度
21	小牧第二	小牧市	1		30				1980年度
22	大口	大口町	2		27		108		1980年度
23	弥富	弥富市	3	3	60	99	325		1984年度

2) 地盤沈下観測所（西三河、東三河地域）

番号	観測所名	所在地	水位計 (台)	沈下計 (台)	帯水層（深度：m）		設置年度
					浅層	深層	
24	吉良	西尾市	2	2	12	52	1976年度
25	豊橋第一 (豊橋市管理)	豊橋市	2	2	47	86	1979年度
26	豊橋第四 (豊橋市管理)	豊橋市	1			200	1979年度
27	豊橋第二 (豊橋市管理)	豊橋市	2			150	1979年度
					63		1981年度
28	小坂井	豊川市	1		58		1985年度
29	西尾第一	西尾市	2	2	12	36	1980年度
30	一色	西尾市	2	2	31	86	1980年度
31	西尾第二	西尾市	2	2	48	71	1981年度
32	碧南	碧南市	2	2	48	97	1982年度
33	岡崎第一 (岡崎市管理)	岡崎市	2	2	47	65	1982年度
34	岡崎第二 (岡崎市管理)	岡崎市	2		38	60	1983年度
35	豊橋第三 (豊橋市管理)	豊橋市	2		70	90	1984年度
36	豊川	豊川市	2		50	96	1985年度

3) 帯水層別観測機器数

区分	帯水層種別	水位計(台)	沈下計(台)
尾張	不圧層	7	0
	G 1 層	19	13
	G 2 層	21	13
	G 3 層	22	14
	小計	69	40
西三河	浅層	7	6
	深層	7	6
	小計	14	12
東三河	浅層	5	1
	深層	5	1
	小計	10	2
合計		93	54

注1) G1、G2、G3層とは、濃尾平野の砂礫層を指し、地表より順に第一、第二、第三砂礫層と称し、利用可能な地下水が多く含まれる地層である。不圧層とは、地表面近くの砂層を指し、自由水面を持った地下水が流れる地層である。

注2) 浅層と深層とは、同一観測所において2箇所の砂礫層で測定しているものの区分である。

4) 他機関設置観測井一覧表

規制区域		規制区域外	
市町村名	箇所数	市町村名	箇所数
津島市	3	瀬戸市	1
稲沢市	5	尾張旭市	1
弥富市	5	豊明市	1
愛西市	7	半田市	1
あま市	2	常滑市	1
大治町	2	東海市	1
蟹江町	1	大府市	1
飛島村	2	知多市	1
一宮市	8	阿久比町	1
江南市	4	東浦町	1
岩倉市	1	南知多町	1
北名古屋	2	美浜町	1
清須市	3	武豊町	1
扶桑町	1	岡崎市	2
大口町	1	碧南市	2
豊山町	1	刈谷市	1
春日井市	4	安城市	2
犬山市	2	西尾市	3
小牧市	2	知立市	1
		高浜市	1
		幸田町	1
		豊橋市	4
		豊川市	1
		蒲郡市	1
		田原市	1
(規制区域内計)		(規制区域外計)	
19市町村	56箇所	25市町村	33箇所
県内他機関観測井戸合計		44市町村	89箇所

5) 主要な地盤沈下観測所の観測井管頭高 (T. P.)

単位：m

観測所名	G1層	G2層	G3層	不圧層	観測基準日	観測所名	浅層	深層	観測基準日
飛島	1.48	1.43	1.49	-	2024年11月1日	吉良	2.45	2.72	2023年9月1日
十四山	-0.52	-0.52	-0.49	-0.49		西尾第一	6.52	6.55	
津島	-0.16	-0.14	-0.11	-0.26		一色	2.73	2.73	
蟹江	0.18	0.17	0.16	0.08		岡崎第一	11.68	11.68	
美和	0.88	0.93	0.94	0.80		岡崎第二	15.84	15.84	
稲沢	5.12	5.15	5.17	5.03		豊橋第一	1.84	1.84	2022年9月1日
一宮	11.04	11.05	11.04	-		豊橋第二	4.65	4.65	
江南	-	21.29	21.31	22.00		豊川	7.65	7.57	

注1) - は対象井戸が無いことを示す。

注2) 一宮は 2008 年の観測結果、岡崎第一、岡崎第二は 2019 年の観測結果である。

資料－４ 2024 年地下水位・地盤収縮量変動状況

(1) 2024 年地下水位・地盤収縮量変動状況（尾張地域）

1) 地盤沈下観測所観測井水位変動状況

区分		井戸数	水位上昇数	無変動	水位下降数	変動量 (m)
尾張	不圧層	7 (7)	5 (3)	0 (1)	2 (3)	0.07 (-0.03)
	G 1 層	19 (19)	18 (12)	0 (1)	1 (6)	0.11 (-0.02)
	G 2 層	21 (21)	21 (12)	0 (2)	0 (7)	0.29 (-0.01)
	G 3 層	22 (22)	21 (15)	1 (1)	0 (6)	0.20 (0.05)
合計		69 (69)	65 (42)	1 (5)	3 (22)	0.19 (0.00)

注 1) () 内は、2023 年数値である。

注 2) 変動量は、年平均水位の前年との比較である。

注 3) G 1、G 2、G 3 層とは、尾平野の砂礫層を指し、地表より順に第一、第二、第三砂礫層と呼ばれ、利用可能な地下水が多く含まれる地層（被圧帯水層）である。不圧層とは、地表面近くの砂層を指し、自由水面を持った地下水が流れる地層（不圧帯水層）である。

2) 地盤沈下観測所観測井地盤収縮状況

区分		沈下計 数	収縮数	無変動	膨張数	月間最大 収縮量 (mm)	年間最大 収縮量 (mm)	平均収縮 量 (mm)
尾張	G 1 層	13 (13)	13 (12)	0 (0)	0 (1)	-2.9蟹江 (-1.1祖父江)	-5.2美和 (-2.8立田)	-0.1 (-0.1)
	G 2 層	13 (13)	13 (11)	0 (1)	0 (1)	-2.9蟹江 (-1.4祖父江)	-6.5美和 (-3.1立田)	-0.1 (-0.1)
	G 3 層	14 (14)	14 (12)	0 (0)	0 (2)	-3.0蟹江 (-1.2立田)	-5.9蟹江 (-3.1立田)	-0.1 (-0.1)
合計		40 (40)	40 (35)	0 (1)	0 (4)	—	—	—

注 1) () 内は、2023 年数値である。

注 2) 収縮量は、観測所内の沈下計により、地表面から各帯水層までの変動量を測定したものである。

注 3) 収縮量の値は、マイナス表示が「収縮」を表し、プラス表示が「膨張」を表す。

3) 他機関設置観測井水位変動状況

区分	井戸数	水位上昇 井戸数	無変動	水位下降 井戸数	無効数	変動量 (m)
第1規制区域	28 (28)	17 (24)	1 (1)	7 (2)	3 (1)	0.09 (0.14)
第2規制区域	22 (23)	15 (18)	0 (0)	3 (4)	4 (1)	0.13 (0.11)
第3規制区域	6 (6)	4 (3)	0 (0)	2 (3)	0 (0)	0.24 (0.12)
合計	56 (57)	36 (45)	1 (1)	12 (9)	7 (2)	0.12 (0.13)

注1) () 内は、2023 年数値である。

注2) 変動量は、年平均水位の前年との比較である。

注3) 無効数とは、調査対象井戸の変更等により前年との比較ができなかった井戸の数を示す。

注4) 区分については、以下のとおりである。(資料－8 地盤沈下対策を参照のこと)

第1 規制区域：津島市、稲沢市、弥富市、愛西市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村、清須市の旧清洲町部

第2 規制区域：一宮市、江南市、岩倉市、北名古屋市、扶桑町、大口町、豊山町、犬山市の一部、
小牧市の一部、清須市の一部

第3 規制区域：犬山市の一部、小牧市の一部、春日井市

(2) 2024 年地下水位・地盤収縮量変動状況（西三河、東三河地域等）

1) 地盤沈下観測所観測井水位変動状況

区分		井戸数	水位上昇数	無変動	水位下降数	変動量 (m)
西 三 河	浅層	7 (7)	5 (4)	1 (0)	1 (3)	0.08 (0.02)
	深層	7 (7)	5 (2)	0 (0)	2 (5)	0.20 (0.05)
合計		14 (14)	10 (6)	1 (0)	3 (8)	0.14 (0.04)

区分		井戸数	水位上昇数	無変動	水位下降数	変動量 (m)
東 三 河	浅層	5 (5)	5 (2)	0 (2)	0 (1)	0.14 (0.05)
	深層	5 (5)	5 (0)	0 (1)	0 (4)	0.26 (-0.07)
合計		10 (10)	10 (2)	0 (3)	0 (5)	0.20 (-0.01)

注1) () 内は、2023 年数値である。

注2) 変動量は、年平均水位の前年との比較である。

注3) 浅層と深層とは、同一観測所において2箇所の砂礫層で測定しているものの区分である。

2) 地盤沈下観測所観測井地盤収縮状況

区分		沈下計数	収縮数	無変動	膨張数	月間最大収縮量 (mm)	年間最大収縮量 (mm)	平均収縮量 (mm)
西三河	浅層	6 (6)	5 (4)	0 (0)	1 (2)	-0.8岡崎第一 (-1.0西尾第一)	-0.9岡崎第一 (-1.0岡崎第一)	0.0 (0.0)
	深層	6 (6)	5 (6)	0 (0)	1 (0)	-0.9一色 (-1.0西尾第二)	-1.7碧南 (-1.2吉良)	-0.1 (-0.1)
合計		12 (12)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	—	—	—

区分		沈下計数	収縮数	無変動	膨張数	月間最大収縮量 (mm)	年間最大収縮量 (mm)	平均収縮量 (mm)
東三河	浅層	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	-0.3豊橋第一 (-0.2豊橋第一)	0.0豊橋第一 (0.2豊橋第一)	0.0 (0.0)
	深層	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	-0.1豊橋第一 (-0.2豊橋第一)	-0.2豊橋第一 (0.3豊橋第一)	0.0 (0.0)
合計		2 (2)	2 (0)	0 (0)	0 (2)	—	—	—

注1) () 内は、2023 年数値である。

注2) 収縮量は、観測所内の沈下計により、地表面から各帯水層までの変動量を測定したものである。

注3) 収縮量の値は、マイナス表示が「収縮」を表し、プラス表示が「膨張」を表す。

3) 他機関設置観測井水位変動状況

区分	井戸数	水位上昇 井戸数	無変動	水位下降 井戸数	無効数	変動量 (m)
尾張（規制区域外）・知多地域	13 (13)	7 (4)	1 (0)	3 (7)	2 (2)	0.22 (-0.11)
西三河地域	13 (13)	10 (6)	0 (0)	3 (5)	0 (2)	0.18 (0.03)
東三河地域	7 (7)	3 (4)	0 (0)	2 (2)	2 (1)	0.03 (0.00)

注1) () 内は、2023 年数値である。

注2) 変動量は、年平均水位の前年との比較である。

注3) 無効数とは、調査対象井戸の変更等により前年との比較ができなかった井戸の数を示す。

資料－５ 2024 年度地下水揚水設備等の状況

(1) 2024 年度地下水揚水量の内訳

単位 上段：m³/日 中段()：％ 下段[]：m³/日

用途 地域		工業	水道	建築物	農業	水産	計
規制区域	尾張	54,027	149,317	27,661	10,629	6,189	247,823
		(21.8)	(60.2)	(11.2)	(4.3)	(2.5)	(100.0)
		[187,374]	[255,981]	[88,389]	[49,765]	[36,366]	[617,875]
規制区域外	尾張知多	38,478	596	21,082	2,336	2,884	65,376
		(58.9)	(0.9)	(32.2)	(3.6)	(4.4)	(100.0)
	西三河	62,471	60,958	20,331	3,803	14,369	161,932
		(38.6)	(37.6)	(12.6)	(2.3)	(8.9)	(100.0)
	矢作古川流域	10,783	6,726	4,794	1,373	8,070	31,746
		(34.0)	(21.2)	(15.1)	(4.3)	(25.4)	(100.0)
	東三河	33,111	34,134	22,899	19,413	108,055	217,612
		(15.2)	(15.7)	(10.5)	(8.9)	(49.7)	(100.0)
計		188,087	245,005	91,973	36,181	131,497	692,743
		(27.1)	(35.4)	(13.3)	(5.2)	(19.0)	(100.0)

注１）尾張地域は、工業用水法・県民の生活環境の保全等に関する条例の規制区域(19 市町村)

注２）尾張・知多地域は、規制区域外の尾張地域(5 市 1 町)と知多地域(5 市 5 町)

注３）矢作古川流域（旧幡豆町を除く西尾市）の揚水量は、西三河地域の内数。

注４）()は、用途別の割合を示す。

注５）尾張地域の[]は、用途別の許可量を示す。

(2) 工業用水法及び県民の生活環境の保全等に関する条例に係る
事業所数及び井戸(揚水設備)数

2025 年 3 月 31 日現在

		事業所数 [カ所]	井戸(揚水設備) [井]	備 考
工業用水法		148 (152)	195 (200)	吐出口断面積が6cm ² 超
県 条 例	規制区域内	2,021 (2,026)	3,315 (3,321)	吐出口断面積が6cm ² 超
	規制区域外	1,583 (1,595)	3,003 (3,020)	吐出口断面積の合計が19cm ² 超 (水量測定器が必要な揚水設備)
	計	3,604 (3,621)	6,318 (6,341)	
合計		3,752 (3,773)	6,513 (6,541)	

注) () 内は、2024 年 3 月 31 日時点の数値である。

資料－ 6 2024 年降水量の状況

2024 年の主要な気象観測所（名古屋、一宮、一色、豊橋）における月ごとの降水量及び年間降水量を資料表 6－1 に示す。

2024 年の各地域の年間降水量は、前年（2023 年）と比べ尾張・東三河地域は増加し、西三河地域は同程度であった。また、全地域において平年値を大きく上回る降水量であった。

月別にみると、前年は 6 月の降水量が比較的多かったのに対し、2024 年は 8 月の降水量が台風の影響を受けて平年値を大きく上回り、特に東三河地域では極端に多かった。また、全地域において、12 月の降水量が平年値を大きく下回った。

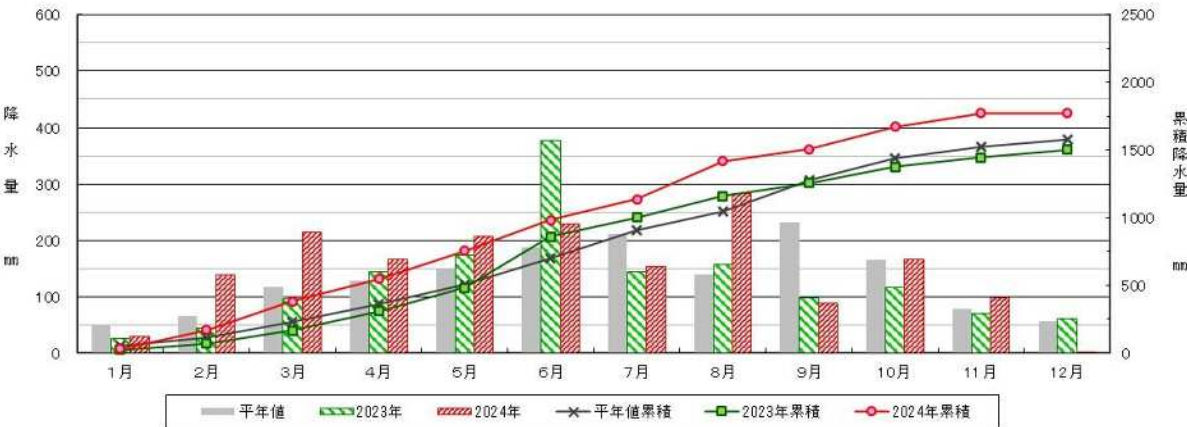
資料表 6－1 気象観測所降水量

単位：mm

区分	名古屋地方気象台			一宮地域雨量観測所			一色地域雨量観測所			豊橋地域気象観測所		
	平年値	2023年	2024年	平年値	2023年	2024年	平年値	2023年	2024年	平均値	2023年	2024年
1 月	50.8	25.0	29.5	58.2	30.5	41.5	51.4	28.5	21.5	58.2	39.0	27.0
2 月	64.7	44.0	138.5	69.6	47.0	148.0	57.7	28.0	96.0	67.2	32.5	97.5
3 月	116.2	95.0	213.5	120.6	77.5	213.5	109.4	88.5	170.0	144.2	93.5	168.5
4 月	127.5	144.0	166.5	139.8	189.5	175.0	116.6	125.0	129.0	152.0	140.0	154.0
5 月	150.3	173.0	206.5	174.0	222.0	209.5	141.0	180.0	194.5	150.9	245.5	256.5
6 月	186.5	377.5	229.0	206.0	360.0	244.0	173.3	391.5	280.0	168.5	535.0	266.0
7 月	211.4	144.0	154.0	233.3	91.0	232.0	156.6	63.5	91.0	207.3	92.5	127.5
8 月	139.5	156.5	282.0	167.5	208.5	363.0	100.4	243.0	234.5	150.4	278.5	462.5
9 月	231.6	98.5	89.0	230.4	150.0	66.5	224.8	215.5	110.5	225.8	226.5	157.0
10月	164.7	116.5	165.5	159.1	116.0	140.0	192.0	136.5	174.0	228.7	154.0	315.0
11月	79.1	70.5	98.0	82.3	75.5	128.0	78.1	58.5	105.5	69.7	87.5	103.0
12月	56.6	60.0	1.0	63.6	71.5	1.5	54.1	55.0	0.5	61.4	54.0	0.0
年間	1578.9	1504.5	1773.0	1704.4	1639.0	1962.5	1455.4	1613.5	1607.0	1684.3	1978.5	2134.5

：平年値を上回る降水量を記録した年月

注 1）平年値とは、1991年～2020年の平均値。
注 2）豊橋地域気象観測所は、2005年11月を境に観測場所の移転、観測方法の変更、測器の変更など、いずれかの理由により観測データがこの前後で均質でない可能性があることから、平年値がないため2012年から2021年の平均値（愛知県独自集計値）を掲載。



資料図 6－1 名古屋地方気象台における月別降水量と累積降水量

資料－ 7 西三河地域及び東三河地域の地盤沈下調査結果

1 西三河地域

2024 年は西三河地域で水準測量を実施していない。

西三河地域の最新の測量は 2023 年であり、観測結果は、前回調査が 2021 年であるため 2 年間（2021 年 9 月 1 日～2023 年 9 月 1 日）の変動状況である。有効水準点 53 点の内、沈下点は 50 点で沈下点数の割合は約 94%であり、前回調査時（約 74%）と比べ増加した。また 1 年当たりに換算して 1 cm 以上沈下した水準点はなく、沈下域はなかった。

沈下点数の推移は資料表 7－1、資料図 7－1、年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移（1975 年～2021 年）は資料表 7－2、主要な水準点の累積変動状況は資料図 7－2 のとおりである。西三河地域では、1997 年以降 1 cm 以上の沈下点は観測されておらず、沈下域は 1985 年以降、1990 年を除いて生じていない。

年間沈下量の大きい水準点は、資料表 7－3 のとおり西尾市吉良町大島上に設置されている水準点「3 2」であり、沈下量は 0.34cm であった。

また、最近 6 年間の累積沈下量の大きい水準点を資料表 7－4 に示す。最大沈下地点は西尾市吉良町大島上に設置されている水準点「3 2」で、1.60cm 沈下している。

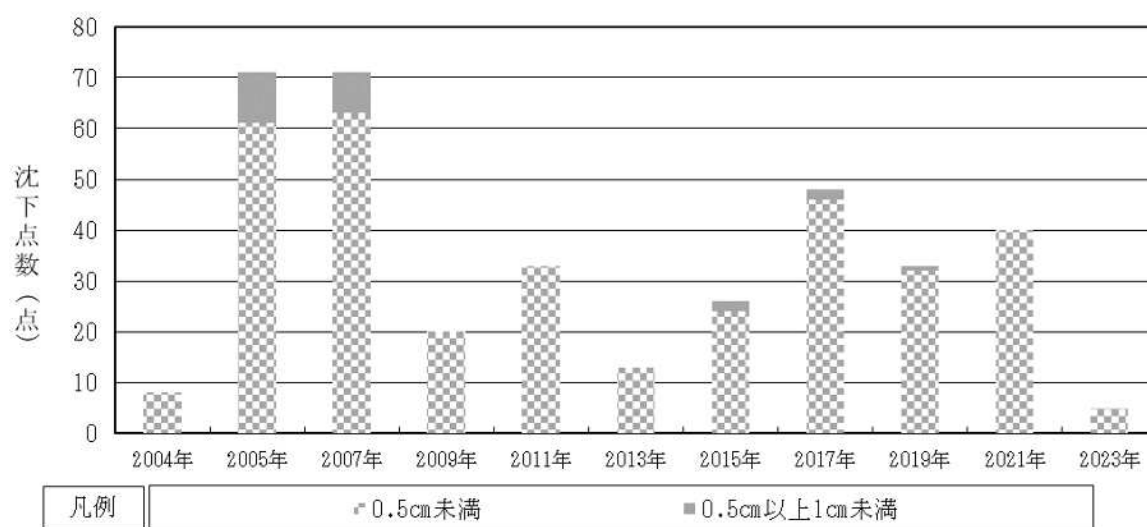
調査開始から 2019 年までの累積沈下量が大きい水準点は、資料表 7－5、資料図 7－2 のとおり、西尾市吉良町白浜新田北切に設置されている水準点「A 2 0 0」であり、累積沈下量は 46cm となっている。

なお、西三河地域における累積沈下量のコンター図を資料図 7－3 に示す。

資料表 7－1 沈下を示した水準点の数（西三河地域）

単位：点

水準点数 \ 観測年		2004年	2005年	2007年	2009年	2011年	2013年	2015年	2017年	2019年	2021年	2023年
有効水準点数		101	87	87	81	68	50	38	53	54	54	53
沈下 点数	0.5cm未満	8	61	63	20	33	13	24	46	32	40	5
	0.5cm以上1cm未満	0	10	8	0	0	0	2	2	1	0	0
	1cm以上2cm未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2cm以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	8	71	71	20	33	13	26	48	33	40	5



資料図 7－1 沈下を示した水準点の数（西三河地域）

資料表 7－2 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移
(1975 年～2023 年：西三河地域)

観測年		単位：km ²																							
		1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
最大沈下量		年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
1 cm 以上		0	約 3	約 4	—	約 8	約 20	約 64	約 9	約 16	約 16	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 4	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0	約 0
2 cm 以上				約 0	—		約 0	約 10	約 0	約 0	約 0						約 0								
3 cm 以上							約 0	約 0																	
4 cm 以上						—																			
最大 cm		0.7	1.6	2.3	—	1.2	3.1	3.5	2.7	2.7	2.4	1.1	1.5	1.7	1.35	1.69	2.20	1.11	0.67	1.41	0.92	1.01	1.27	0.93	0.75

観測年		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
		年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
1 cm 以上		0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0
2 cm 以上									—		—		—		—		—		—		—		—		—	
3 cm 以上									—		—		—		—		—		—		—		—		—	
4 cm 以上									—		—		—		—		—		—		—		—		—	
最大 cm		0.36	0.55	0.64	0.52	0.95	0.39	0.91	—	0.83	—	0.37	—	0.26	—	0.22	—	0.36	—	0.62	—	0.64	—	0.44	—	0.34

- 注 1) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。
- 注 2) 1978年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年は測量を実施していない。1979年、2007年、2009年、2011年、2013年、2015年、2017年、2019年、2021年、2023年の最大cmは、1 年間に換算した変動量を示す。

資料表 7－3 年間沈下量の大きい水準点（西三河地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
32	西尾市吉良町大島上	0.34
A358	西尾市吉良町吉田万田	0.27
A-4	岡崎市福桶町字宮越	0.22
A386	西尾市鷺ヶ池町大道	0.22
A216	西尾市東浅井町堤内	0.21

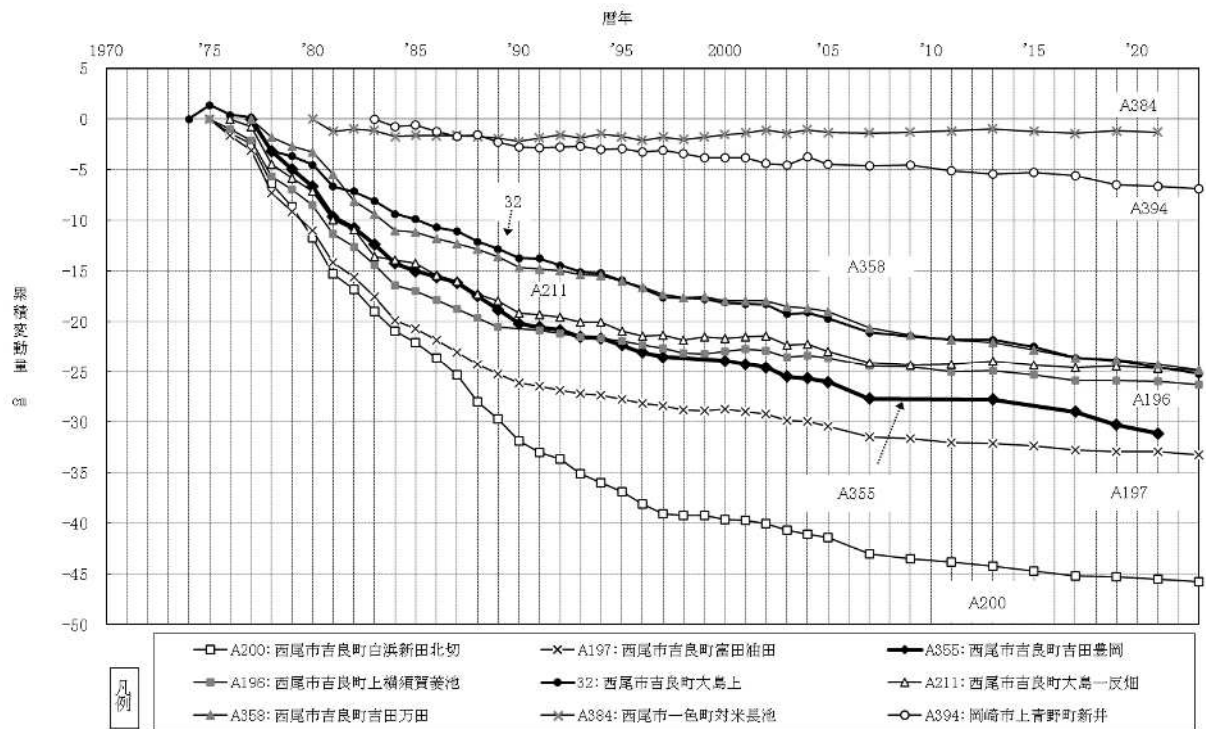
資料表 7－4 最近 6 年間の累積沈下量の大きい水準点（2013 年 9 月～2023 年 9 月：西三河地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)
32	西尾市吉良町大島上	1.60
A394	岡崎市上青野町新井	1.25
A-4	岡崎市福桶町字宮越	1.20
A358	西尾市吉良町吉田万田	1.15
A386	西尾市鷺ヶ池町大道	0.98

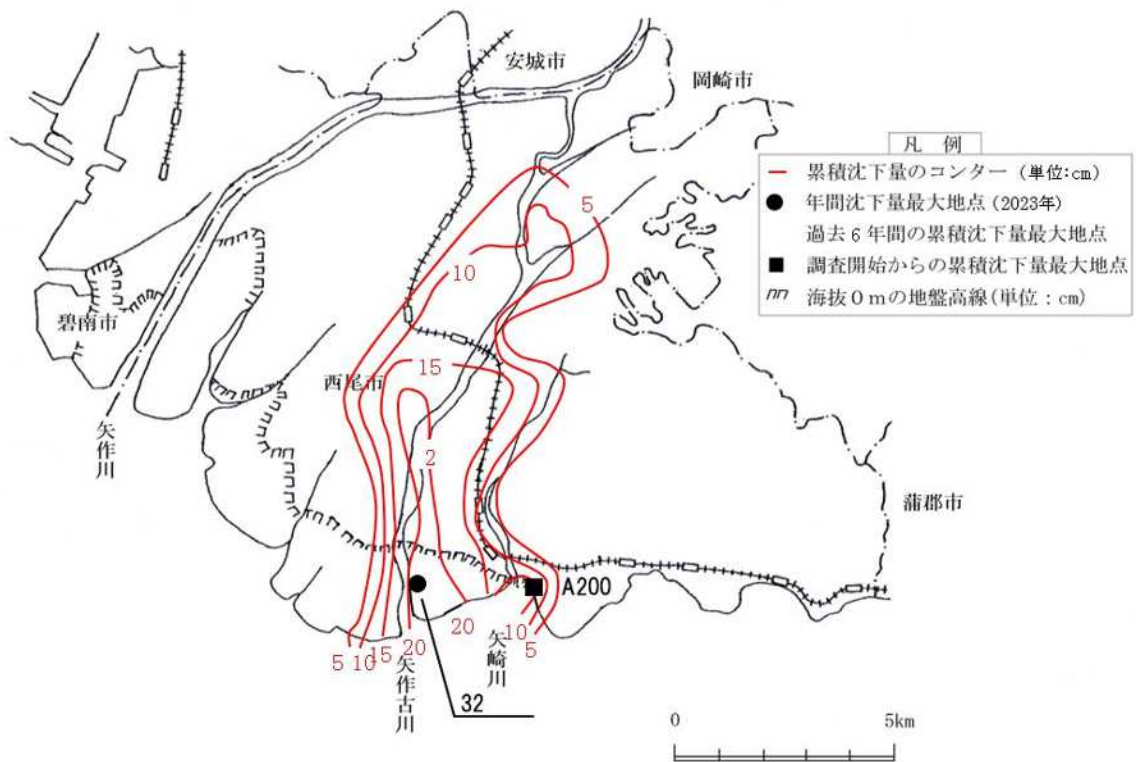
資料表 7－5 累積沈下量の大きい水準点（調査開始年～2023 年 9 月：西三河地域）

水準点番号	所在地	沈下量(cm)	標高T.P.(m)	調査開始年
A200	西尾市吉良町白浜新田北切	46	+ 1.0124	1975年
A197	西尾市吉良町富田油田	33	+ 1.2380	1975年
A355	西尾市吉良町吉田豊岡	31 注)	(+ 3.9237)	1977年
A196	西尾市吉良町上横須賀菱池	26	+ 2.2322	1975年
32	西尾市吉良町大島上	25	+ 4.5517	1976年
A211	西尾市吉良町大島一反畑	25	+ 0.0736	1974年
A358	西尾市吉良町吉田万田	25	+ 1.1706	1975年

注) 2023 年測量時において水準点近傍の工事による影響が認められたため、2021 年 9 月までの累積沈下量。
また、A355 標高は 2021 年 9 月時点。



資料図 7-2 主要な水準点の調査開始からの累積変動状況 (西三河地域)



資料図 7-3 累積沈下量のコンター図 (1975 年～2023 年: 西三河地域)

2 東三河地域

2024 年は東三河地域で水準測量を実施していない。

東三河地域の最新の測量は 2022 年であり、観測結果は、前回調査が 2018 年であるため 4 年間（2018 年 9 月 1 日～2022 年 9 月 1 日）の変動状況である。

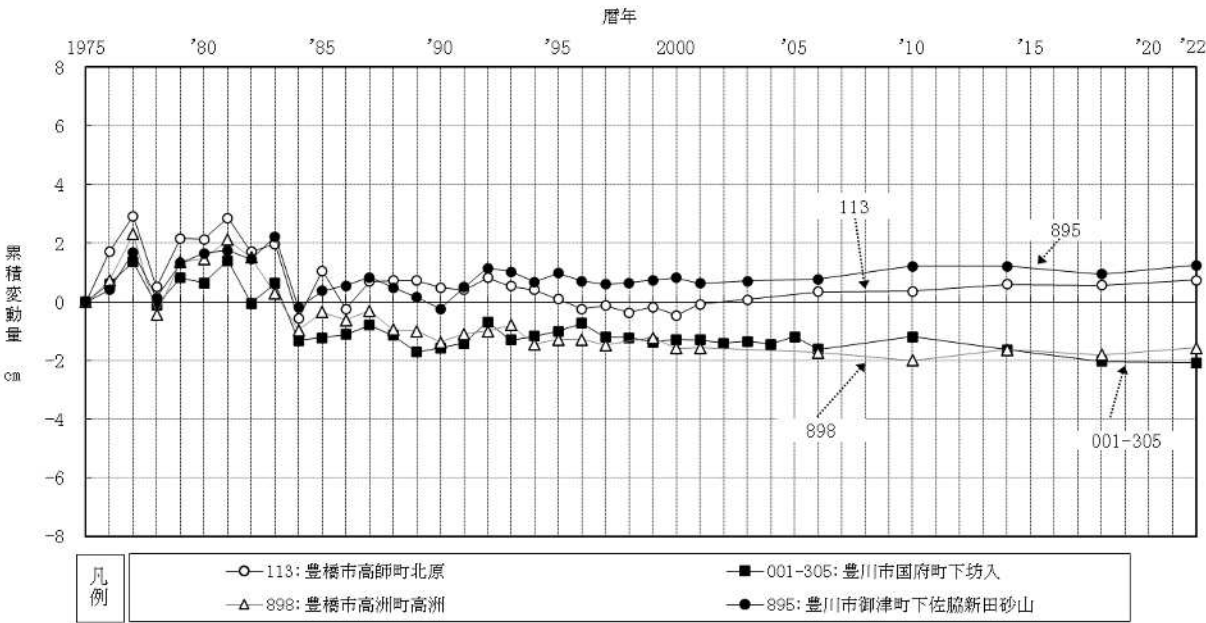
2022 年に実施した水準測量の結果は資料表 7-2 に示すとおりで、有効水準点数 56 点の内、沈下点は 13 点で、沈下点数の割合は約 23% となり、2018 年（約 65%）と比べ減少している。また、1 年当りに換算して 1 cm 以上沈下した水準点は観測されず、沈下域は生じなかった。

また、2022 年までの主要な水準点の累積変動状況は資料図 7-2 に示すとおりで、東三河地域では 1980 年代後半から地盤沈下の傾向は見られていない。

資料表 7-2 水準測量結果（2022 年：東三河地域）

単位：点

地域	水準点数	測量 水準点数	有効 水準点数 (A)	沈下点数					割合 (B/A)
				計(B)	0.5cm未満	0.5cm以上 1cm未満	1cm以上2cm 未満	2cm以上	
東三河地域		57	56	13	13	0	0	0	23%



資料図 7-2 主要な水準点の累積変動状況（2022 年：東三河地域）